

第四十六回岩手県俳人協会新年俳句会成績

令和四年一月二十九日(土)

大会賞

湯で洗ふ馬の蹄や深雪晴

盛岡 八重樫 美佳

寺島ただし特選

大根を送る故郷の土つけて

奥州 池内 雅一

病床に坐して遙拝御慶かな

盛岡 齊藤 實

眼も耳も脚も不具合年用意

北上 中嶋 広江

鮫鱈の平にご容赦というふ形

一関 小野寺 東子

寺島ただし入選

冬ぬくし紅き蹴出しの湯もみ唄

奥州 佐藤 靖子

今もなほ屋号で呼んで松迎へ

奥州 大石 文雄

ねんねこを呼びとめらるるニューヨーク

奥州 佐藤 靖子

毛糸編み心の透間埋める夜

奥州 沼倉 規子

真つ直ぐに光堂さし初詣

盛岡 鈴木 睦子

父母のこゑ聞きし仏間の淑気かな

奥州 高橋 洋子

牛飼ひのまづ牛小屋に注連飾

奥州 及川 忠子

あの山は祖父の寝姿風花す

盛岡 二階堂 光江

老いてなほ明日にゆめあり返り花

奥州 伊藤 さとる

子に齡問へば問はるる初座敷

盛岡 安達 広子

大いなる夕虹くぐり白鳥来

奥州 伊藤 さとる

炭櫓の綱のくひこむ父の肩

盛岡 篠村 恵美子

智恵の輪のやうに白鳥首回す

盛岡 相馬 定子

聡からぬ耳もまた良し女正月

花巻 大平 春子

駆け下る地駄曳き馬や息白し

盛岡 畑 育子

荷解きの上がり框や曆売

盛岡 畑 育子

鋸をもて分けあふ冬至南瓜かな

金ヶ崎 佐藤 嘉子

白濱 一羊特選

山眠る早ばや閉まる何でも屋

盛岡

阿部ゆき子

新聞を地層のごとく積み三日

盛岡

二階堂光江

下りきれずのぼりきれずに雪蛍

北上

早川 羽山

小畑 柚流特選

大根を送る故郷の土つけて

奥州

池内 雅一

結局は元に戻して年用意

盛岡

岩渕みゆき

からからと絵馬の鳴りたる神の留守

盛岡

齋藤 雅博

小林 輝子特選

声たてず破魔矢づくりの巫女溜り

奥州

穴戸 田良

眼も耳も脚も不具合年用意

北上

中嶋 広江

鋸をもて分けあふ冬至南瓜かな

金ヶ崎

佐藤 嘉子

馬場吉彦特選

ねんねこを呼びとめらるるニューヨーク

奥州

佐藤 靖子

高台の小さきアトリエ雪蛍

盛岡

阿部ゆき子

短日のモツアレラチーズ切れぬピツツア

盛岡

伊藤 恵美

澤口 航悠特選

新暦晴れも曇りもある暮し

盛岡

佐々木八千代

智恵の輪のやうに白鳥首回す

盛岡

相馬 定子

狐火や灯ることなき轆轤小屋

盛岡

和田 タケ

及川 茂登子特選

下りきれずのぼりきれずに雪蛍

北上

早川 羽山

ちちははに近き思ひの小米粥

盛岡

岡部 玄治

冬銀河賢治の詩の口に出て

盛岡

佐々木 充

及川 永心特選

補聴器の電池を替へて年用意

一関

小山 尚宏

缶切のいらぬ缶詰一茶の忌

盛岡

佐々木昌子

新聞に地層のごとく積み三日

盛岡

二階堂光江